

有田町(佐賀県)「400年の歴史・文化を紡ぐ窯業の町・有田」 ～次の100年に向けた町と支援官の二人三脚～

産業振興×観光

基本情報

- 人口：18,325人
(令和7年7月時点)
- 町長：松尾 佳昭

活動実績

- 現地訪問：2回
(5/24～5/26、7/30～8/1)
- オンライン会議：4回(4/15、5/15、
6/18、7/9)



400年を超える歴史を持つ有田焼



重要伝統的建造物群保存地区である内山の町並み

※上記画像は有田町HPより



※有田町HPより

地方創生支援官

- ① 経済産業省 補佐級
- ② 国土交通省 補佐級
- ③ 総務省 課長級

町の課題

○窯業の振興

町の主産業である窯業においては、①担い手・後継者の不足、分業事業者の減少、②原材料の高騰等に課題。一方で、ニューセラミックス等の成長が期待される分野も存在。地元金融機関も交えた、行政支援の方法など具体的なサポート等を検討。

○ビジネスマッチング、観光資源を活かした取組

地域の企業と大都市圏の企業との連携・情報交換等のビジネスマッチングや、歴史ある観光資源を活かした視点で、窯業振興に取り組む。

支援の流れ

○現地関係者ヒアリング、オンライン会議の実施(5月～)

現地訪問を通じて、窯業等の幅広い関係者と意見交換。また、県庁、国の出先機関から施策の現状について聴取。町の担当者とオンライン会議を併用して検討の進め方等について議論。

○課題解決検討ワーキングの実施

町の職員、支援官みんなで町の課題を見える化し、目指すべき着地点、それに至る具体的な行動を明確にするため、各自で「マンダラート」を活用した検討を実施し、現地でのワーキングでその深堀の議論を実施。

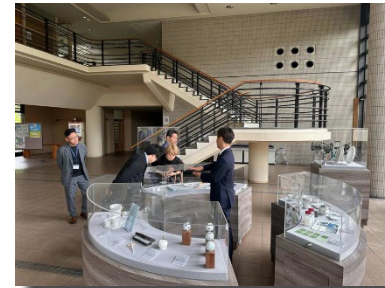
○ワーキング検討結果の実践

議論を反映した「行動計画」を策定し、支援官も交えて短期、中長期を見据えた実践に取り組むことを目指す。

【参考1】有田町の現地の概要について

◆ 1回目の訪問（5月24日（土）～5月26日（月））

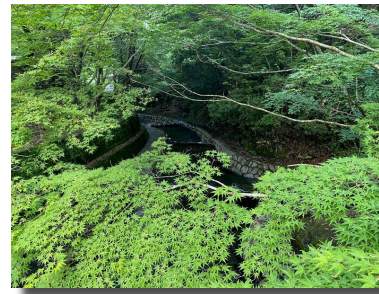
400年を超える歴史を持つ窯業の町であり、今回の支援要望にもあるように、旧採石場、窯元、陶磁器の販売店などが有田町内各地に点在。有田町には、窯業を支える技術センター、窯業者の集まりである組合、卸団地もある。1回目の訪問では、このような窯業に関わる多くの方々から意見を伺った。



しかし、有田町には陶磁器だけではない。生活をしていると「当たり前」過ぎてしまうのかもしれないが、多くの自然やスポットなど、「人が集まる」潜在能力を持つ地域資源がある。



窯業の町だけに、あらゆる所に陶磁器を用いたものがあふれる。バス停の案内板、鳥居、アクセサリ…土産菓子まで陶磁器（又は模したもの）…。



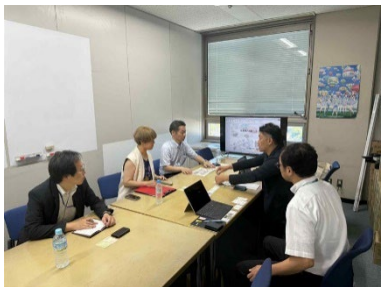
◆ 2回目の訪問（7月30日（水）～8月1日（金））

2回目の訪問においては、1回目でお話を伺えなかった窯業者の方々から窯業における課題やチャレンジの状況に加えて、有田町の活性化に携わるNPO法人や商工会議所、まちづくり公社からも有田町の現状、移住者支援などについて、傾聴の姿勢を前面にお話を伺った。また、地域の金融機関から見た地域の経済状況などに関する意見交換会にも参加。



佐賀県が実施する県内伝統産品支援と有田焼振興の今後の協力について議論。また、有田町議会とも支援官の取り組みに関して意見交換を実施。

2回目の有田町訪問の最大の目的は、支援のあり方に関する町職員や関係者を集めてのディスカッション。マンガラートモデルを活用した短期～超長期の窯業振興（やること）について議論を実施。

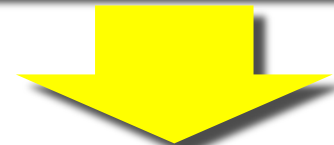


【参考2】 マンダラートについて

[illegible]

マンダラートとは…

- ① 3×3 の 9 マスの中心のマスに、最終的な目標、やりたいことなどを書き込む。
- ② 次にその周囲のマス（8つ）に目標を達成するために必要と思われる中目標を埋める。
- ③ 最後に、その中目標を中心とした 3×3 の 8 つのマスを周囲に展開し、中目標を達成するための具体的な取り組みを埋めていく。



20名を超える有田町職員・有田町関係者・支援官一人ひとりがマンダラートワークを実践。全体ミーティングで目線を合わせつつ、具体的なアクションプランへ進化させていく。

対馬市(長崎県)「対馬市 X 伴走支援 ～誰もが“行きたい場所に行ける島”を目指して～ 北部対馬から始まる、暮らしを支える小さな挑戦」

官民連携×地域交通
×産業振興

基本情報

- 人口：27,008人
(令和7年2月末時点)
- 市長：比田勝 尚喜

活動実績

- 現地訪問：2回 (6/9-11、9/1-3)
- オンライン会議：9回(4/16、7/15、7/18、7/28(2件)、8/1、8/5、8/19、8/21)、その他対馬に関心ある企業等とのオンライン・対面会議を複数回実施

地方創生支援官

- ① 環境省 補佐級
- ② 外務省 補佐級
- ③ 総務省 室長級

市の課題

- (仮称)北部対馬アクションプランの策定及び実現
対馬市では、南北に長い対馬を3エリアに分け、現在、上対馬を対象として北部対馬アクションプランを策定中(中対馬、下対馬はアクションプラン策定済み)。根源的な課題として、担い手がいらない、働き手がいらないことが明確化。不動産活用、交通、教育・人材・働き方、商業・観光まちづくり、環境保全・活用の5つのテーマを柱として、各作業部会において議論や検討が進められている。
- 地域交通の課題解決に向けた新しい挑戦
北部対馬には交通空白・不便地域が3か所あり、上対馬振興部では、5つの柱のうち、特に自由な移動の確保、「行きたい場所に行ける」仕組み・体制作りを喫緊の課題として認識。

支援の流れ

- 地域交通、人材確保、不動産活用、海洋ゴミなど課題解決に向けた企業連携
対馬に関心のある企業等との連携強化を支援(オンライン会議および現地出張)。
- 行きたい場所に行ける仕組みづくりへの支援
地域交通の課題解決に向けて、運輸局等との意見交換を実施。
- 「とがった」対馬の魅力探求・発信
自治体公共Weekでの発表等、対外広報を支援。郷土料理研究家を紹介し、地元産食材を活用した新たな特産品創出に向けて支援(オンライン会議および現地出張)。
- 補助金・個別政策分野の相談・アドバイス、有識者招聘
不動産活用や森林公園アクセス道路沿いの電線地中埋設の対応等を検討中。



(対馬市・観光物産協会HPより)



基本情報

- 人口：3,768人
(令和7年6月末時点)
- 町長：高橋 周二

活動実績

- 現地訪問：1回 (5/22-5/23)
- オンライン会議：6回
(4/15、5/1、6/6、6/20、7/1、8/18)

地方創生支援官

- ① 国土交通省 係長級
- ② 復興庁 補佐級
- ③ 農林水産省 室長級

町の課題

○観光交通の改善、周遊促進

南小国町は黒川温泉をはじめとする数多くの温泉地を有しているが、繁忙期における駐車場の混雑緩和、旅館からレストランへの交通手段の確保などが課題。また、温泉客が町内の他の場所も観光で訪れるような周遊促進も課題。

○交通空白地における生活交通の持続性確保

町内のバス路線を一部廃止後、交通空白地対策としてタクシー利用費助成を実施中。町財政やドライバー確保等の面での課題が将来的に考えられるため、公共ライドシェアを含め持続可能な交通施策について検討中。

支援の流れ

○地元関係者ヒア・訪問(4月～)

町役場、観光協会、地方支分部局、地域交通事業者等へのヒアリング・現地視察を行い、地域交通や観光等に関する地域の課題を明確化。

○事例、補助金等の紹介(6月～)

課題を踏まえて対応方向について町役場と議論し、他地域での先進的な取組や、支援施策として活用可能な国の補助金等を紹介。

○今後の町としての施策の整理(9月～)

将来的な課題を見据え、先進事例を参考に、国の施策を活用した実証的取組等について検討。



出展：熊本県町村会HP

益城町(熊本県)「住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」 ～熊本地震からの創造的復興のまちづくり～

まちづくり×復興

基本情報

- 人口：34,338人
(令和7年7月時点)
- 町長：西村 博則

活動実績

- 現地訪問：2回
(6/23-24、7/22-23)
- オンライン会議：5回
(4/14、5/15、6/2、7/17、8/29)
- 事業者ヒアリング(オンライン)：2回
(6/25、7/22)

地方創生支援官

- ① 環境省 補佐級
- ② 国土交通省 課長級
- ③ 経済産業省 室長級

町の課題

○震災からの創造的復興

2016年の熊本地震からの復旧復興において、道路などインフラの再構築は進んだものの、創造的復興に向けては、住宅・産業等民間投資の復活が必要。

○現役世代流出への対応

熊本地震後、若年層～現役世代の流出が見られ、高齢化が大きく進んでいる。現役世代の定住と、農業等地元産業の担い手確保が必要。

○町外への消費・投資の流出への対応

町役場を中心とする木山地区において、地域内経済循環に資する魅力あるまちづくりが必要。

熊本県



益城町



【熊本地震直後】



【最近の状況】

支援の流れ

○木山デザイン会議への参加(7月～)

木山地区のまちづくり構想策定に向けた木山デザイン会議の委員・オブザーバーとして参画し、木山地区のまちづくりにおける回遊性向上策、来訪者の利便性向上策等について提案。

○県との円滑な調整(6月～)

熊本県庁の都市計画部局、農政部局等と意見交換を実施し、町と県の円滑な調整を促進。

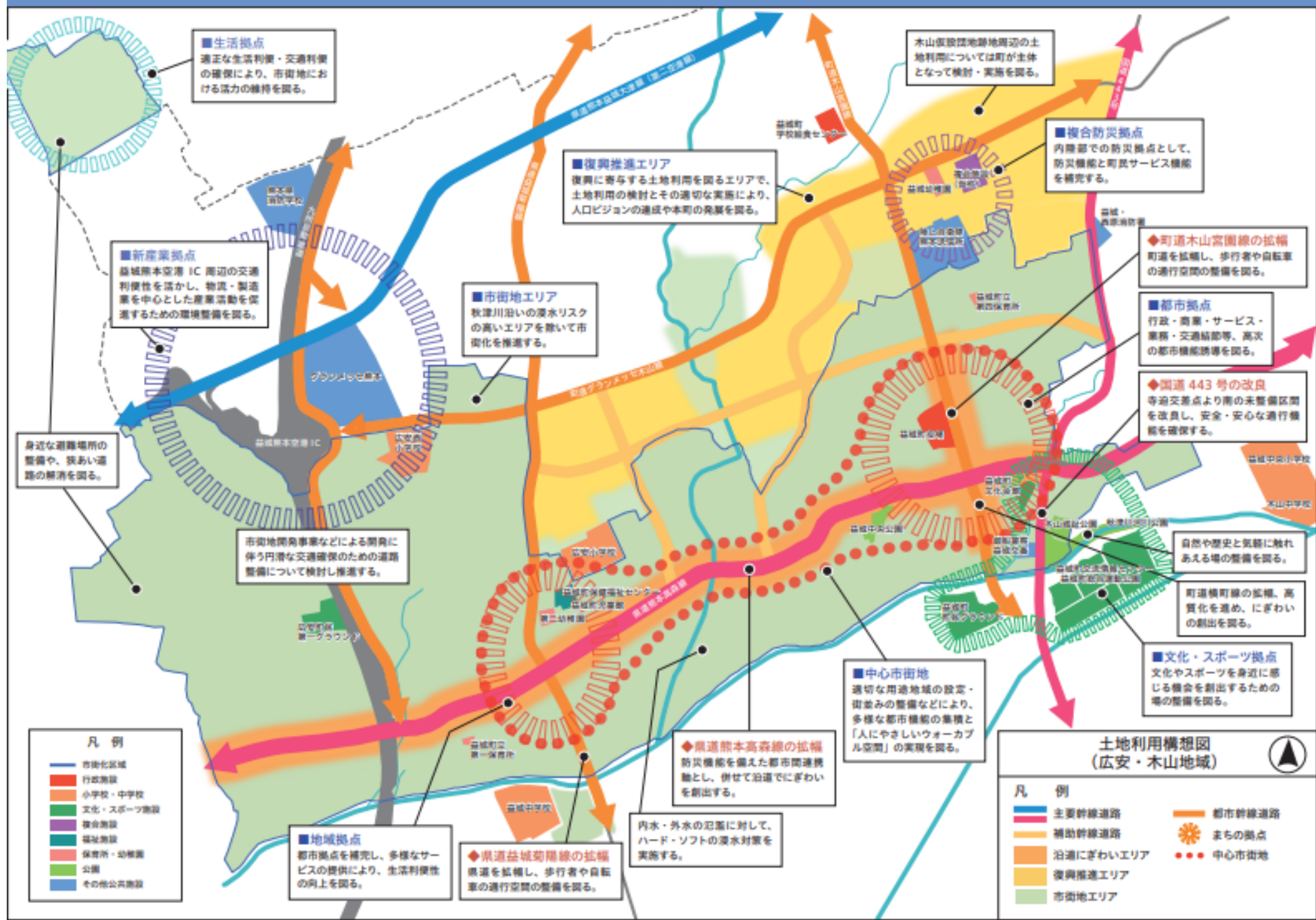
○民間事業者との連携提案(6月～)

官民連携のまちづくりの実現に向け、大手企業とのオンライン打合せ等をセッティング。官民連携方策を町とともに検討。

○益城町庁内勉強会への参加(6月)

庁内勉強会に参加し、役場職員との意見交換を行う。

土地利用の構想（広安・木山地域）



創造的復興の取り組み



町の現状・課題

- 親子で楽しめる公園や商業施設の不足
(都市機能のバランス良い配置ができていない)
- 都市拠点・復興推進エリアの発展に資する人口確保
(総人口は戻りつつあるも都市拠点(木山地区)は人口減少)
- 復興事業(土地区画整理や県道拡幅)の効果の最大化
(木山地区における人口確保策が必要)



課題解決に向けた着眼

仮設団地跡地の活用

- 木山仮設団地は、最後まで被災者の生活を支えた益城町にとってシンボリックな場所(入居者の減少等でR5.3に閉鎖)
- 災害リスクが低く、都市拠点の役割を補完する拠点として有効活用したい



仮設団地跡地を活用した フェーズフリーなまちづくり

農業

×

防災

×

住まい

住宅



公園



生活利便施設



持続可能な地域・創造的復興へ



公民連携事業として一体的な整備(居住空間の整備)



地域農業の振興や地域経済の循環、教育・防災分野における地域内資源を活かしたソフト事業を展開

基本情報

- 人口：14,787人
(令和7年5月末時点)
- 市長：石川 正史

活動実績

- 現地訪問：1回
(6/6-8)
- オンライン会議：6回
(4/24,6/24,7/7,7/14,7/30,9/4)



(津久見市観光協会HPより)



地方創生支援官

- ① 農林水産省 補佐級
- ② 防衛省 係長級
- ③ 文部科学省 室長級

市の課題

～進学・就職に伴う20代前後や家庭を持つ30代など若い世代の転出傾向が顕著～

○職業の多様性(企業誘致)

津久見市はセメント工業の市として栄えているが、職業の多様性が少なく、女性流出につながっている

○津久見高校の充足率(高校の魅力化)

津久見高校の市内からの進学率が少なく、若者流出につながっている。(津久見高校の魅力化事業に取り組中)

○取り組みの発信力(広報)

例えば、子育て支援は手厚く行っているが、市内外に伝わらず定住・移住につながらない

支援の流れ

～津久見市らしさを生かし、津久見市の“やりたいこと”を見出し、施策化するステップの支援～

○現状把握(4月～7月)

津久見の現地訪問・農業関係者ヒアリング・市役所の担当課との意見交換を通じ、課題・長所を洗い出し

○ニーズ(やりたいこと)調査(8月～10月)

長所・課題より、仮説として「みかん・セメントなど地域資源に着眼した高度な学習などを津久見高校に取り入れ、それが地域の盛り上がり波及する」ことを一案としつつも、市役所の担当課・地元キーパーソンと意見交換を行い、ニーズ(やりたいこと)調査を実施中

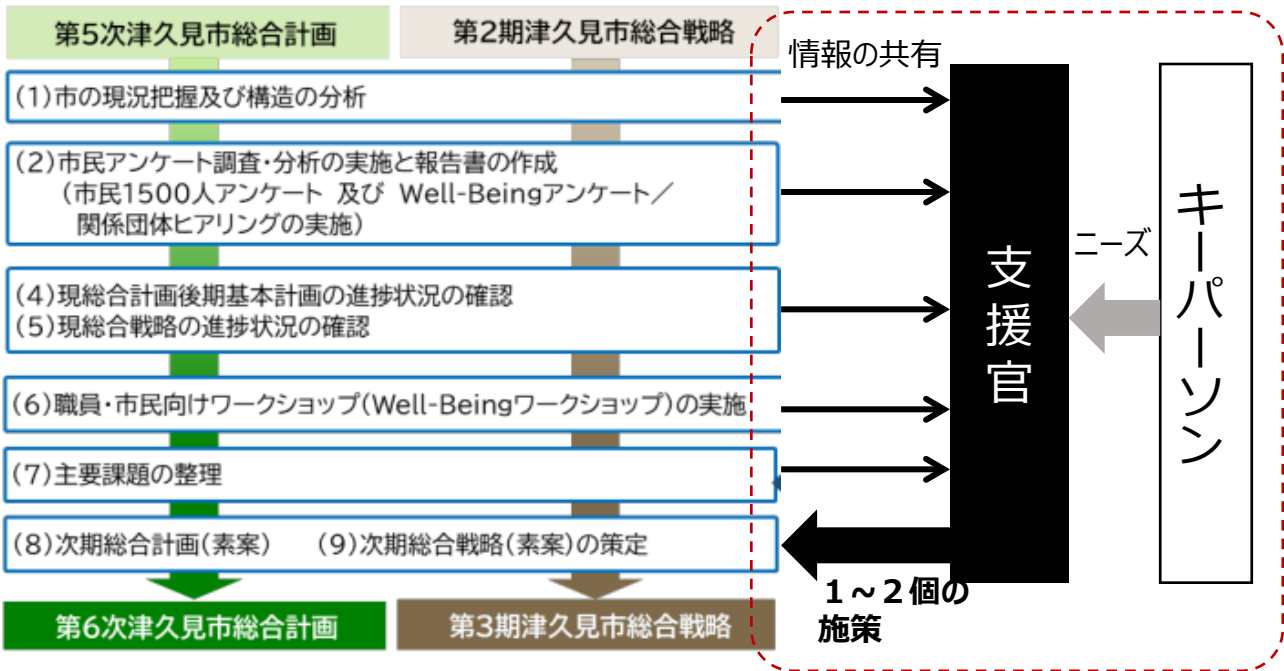
○施策の種まき(11月～3月)

大分県教委等とニーズの実現可能性に係る意見交換を実施し、実行に向けた道筋を整理の上で、その方向性を総合戦略策定に反映予定

第三期総合戦略策定と我々の支援のかかわりについて

- 津久見市が第三期総合戦略策定を行っている中で、我々の支援は、第三期総合戦略の中での「1～2個の施策」を検討
- その中で、今までの支援として、現地調査・ワークショップへの参加・オンライン会議等を行ってきた

第三期総合戦略を我々の支援の関係性



総合戦略策定の情報や、津久見市のキーパーソンのニーズなどをくみ上げながら1～2個の施策を検討

我々の支援詳細

● 現地調査を通じた気づきの整理



● 市民ワークショップへの参加



● 関係課と地方創生2.0に関するディスカッションを実施



WHY：何故「1～2個の施策なのか」→ チャレンジには選択と集中が必要
HOW：どうやって実現するのか→ 市とそのキーパーソンのチームづくり
主役は飽くまで津久見市。市の外の視点で市のポテンシャルを引き出すための“伴走”

施策（仮説）

- 現地訪問・ヒアリングを通じ、支援官の気付きと津久見市のニーズを整理
- 継続性と効果のある施策とするためにも、気付き・ニーズ両方を満たす施策が有効と考えており、仮説ではあるが、一案として、ミカン・セメント等地域資源に着眼した高度な学習等を津久見高校に取り入れ、それが地域の盛り上がりにつながるのが良いと思料。施策の具体化を進めていくためにも、さらなるヒアリングを進めていく。

気付き・ニーズ（再掲）

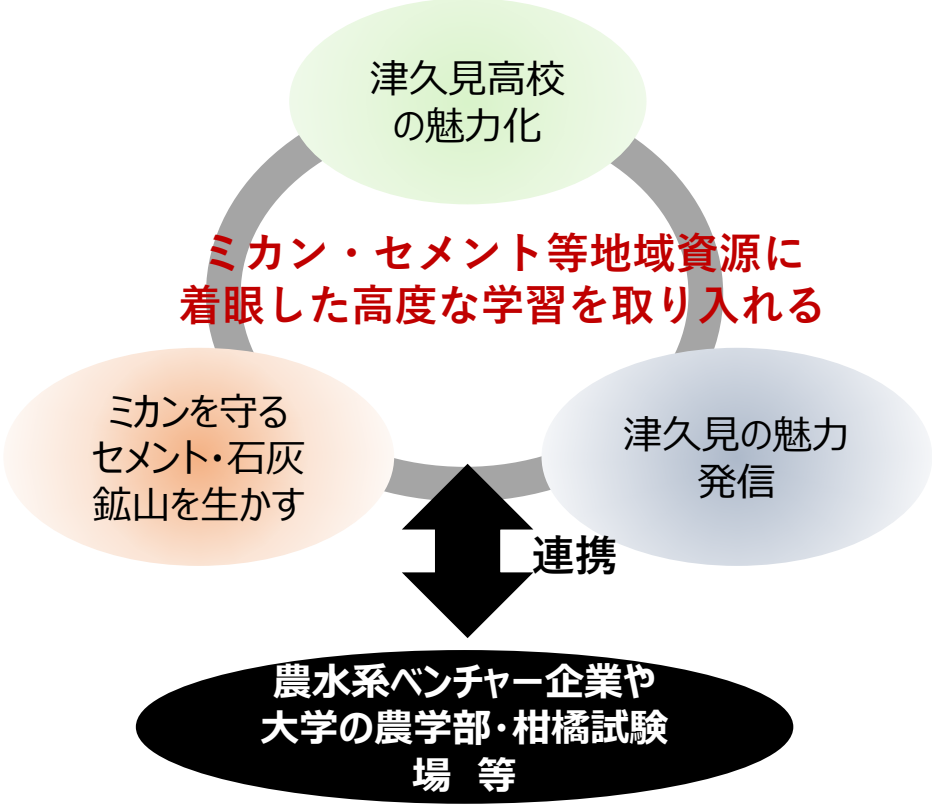
支援官の
気付き

- 全方位的に地方創生に関する取り組みを行うものの、**産官学連携や広域連携等の横の連携や、関係人口への継続的な取り組みが道半ば**
- 基盤整備事業でミカンを残す取り組みが行われているものの、**割り切った絞り込みで施策の網にかからない園地**にギャップ
- 子育て世代向けに、医療費・教育・予防接種無料化に取り組んでいるものの、発信力の不足で、**市民が良さに気づいていない**

津久見市の
ニーズ

- **職業の選択向上**に向けた企業誘致
- **津久見高校の魅力化**（充足率の向上、農業先端技術などの取り組み）
- 津久見市の内外への**魅力発信**
- **ミカンを守りたい**（生産者・高付加価値商品・観光農園化）
- **石灰鉱山・セメント業を生かしたい**（観光地化）

気付き・ニーズを取り入れた施策のイメージ（仮説）



西米良村(宮崎県)「人口1,000人が笑う村」の持続可能な未来へ ～課題山積、それでも明るく前向きな宮崎県西米良村の挑戦～

観光×農林水産業
×地域交通

基本情報

- 人口: 992人
(令和7年6月時点)
- 村長: 黒木 竜二

地方創生支援官

- ① デジタル庁 課長級
- ② 外務省 係長級
- ③ 総務省 補佐級

活動実績

- 現地訪問: 1回(7/2—7/4)
- オンライン会議: 8回
(4/14、4/24、5/8、5/19、6/11、6/19、7/29、8/21)
- その他(宮崎県移住相談員やライドシェア事業者からのヒアリング、ライドシェアの導入に向けて国土交通省の窓口紹介、Googleマップ未反映道路についてGoogle社と折衝し反映、Google社と国土地理院をマッチングし全国の未反映道路解消に向けた検討を依頼、台湾福岡事務所との調整等)



村の課題

- ライドシェアの導入等による交通インフラの確保
村民や観光客の夜間帯の移動や村内周遊を可能とするデマンド交通の導入と既存ダイヤの見直しを検討。
- 「山」、「神楽」を核とした交流人口の増加
西米良村の最大の強みである「山」、「神話のルーツ」や「神楽」を核に村の魅力を国内外に発信し、「体験」を通じた交流と関係人口を創出。
- 農業のスマート化
西米良産のジビエやゆず製品のブランド価値の向上と、有名料理店への売り込みなど販路拡大を図る。

支援の流れ

- 村の課題の発掘と方向性の検討(4月～)
オンライン会議や関係者等からのヒアリング等を踏まえ、村の課題と課題解決の方向性を整理。
- 地域活性化アクションプラン『山を核とした地域循環モデルの確立』を目指しての策定(7月)
支援官の提言をもとに、村において地方創生の検討方針「山を核とした地域循環モデルの確立」を決定。
- 神楽等の体験型ワークショップ、体験型ふるさと納税、首都圏などでの特産物の売り込み、特定地域づくり事業協同組合導入検討、ライドシェア運行開始、台湾事務所との関係作りなどの具体施策に向けた支援(8月以降)

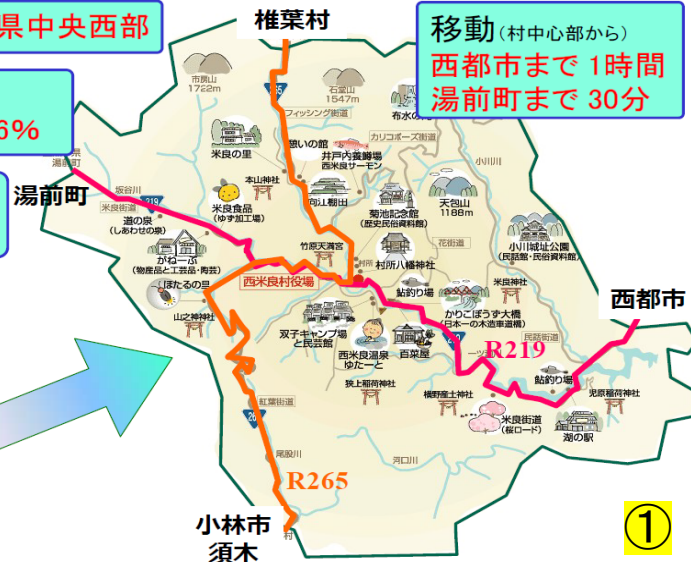
位置と概要



九州中央山地／宮崎県中央西部

総面積 271.51 km²
急峻な地形 森林 約96%

主要幹線道路
国道219号、265号



移動(村中心部から)
西都市まで1時間
湯前町まで30分

交通インフラの確保

西都市～西米良村を結ぶ路線バス
(村補助金と貨客混載で路線を維持)



始発8:05の現行
ダイヤでは高校へ
の通学は不可能

昼間・村内のみ運行。村民や観
光客の移動手段の向上が急務
(村内にタクシー事業者なし)



村営デマンドバス

⇒自治体型ライドシェアの導入等による利便向上

交流人口の拡大



米良三山への登山客誘致



神楽や民話を活用した文化体験



温泉施設「ゆたーと」



ふるさと納税返礼品の魅力向上

⇒「1000人が笑う村」の実現に向けた交流人口の拡大

③

持続的に稼げる農業(スマート農業)への転換

柚子 (R5出荷額187t 35,628千円)

- ・昭和48年より推進しており、現在47戸で生産。
- ・昭和50年にゆず加工所「米良食品」が設立され、以来村内産の加工柚子を活用した商品等が数多く販売されている。
- ・村でもゆず団地を造成し、現在4名の担い手が就業。



(ゆず団地)

- 村特産品ゆずの生産量拡大と後継者育成のため、平成21年度からゆず団地を造成
- 団地面積：約5ha 栽培本数：約3千本(実生柚子を含む)
- 現在4名の新規就農者(UIターン者等)
- 将来的に年間生産量72tを目標

生産者の所得向上や
担い手の確保が課題



⇒生産・選果のスマート化、果実・加工品の販路拡大

④

(支援活動の一例)「山を核とした交流人口の増」をテーマとする支援

GoogleMaps未掲載道路の解消に向けた支援

- 支援官によるGoogle社との直接交渉
- 全国の同様事例の解消に向けた同社と国土地理院のマッチング

反映後のグーグルマップ



未掲載道路(黄色部分)の掲載を村役場からGoogle社に申請

Google Mapsに反映(市房山5合目駐車場が地図に表示された)

◆支援官(登山愛好家)の目線で気付いたニーズ

- 登山口までがGoogleマップだと途中まで。車のナビも同様で、行けるのかしらと超不安でしたが、たいさんの活動日記を参考に265号から分岐の橋を渡り車を走らせると(私は助手席ですが...)ちゃんと「五合目登山口直進」の看板がドーンと。舗装路で離合場所もあってホッ。
<https://yamap.com/activities/39399699>
- ゴグル先生(グーグル検索)にお任せしすぎて到着して登山計画と開くとあら不思議🤖
五合目登山口に行くつもりが何故か一合目登山口へご案内🐼
グーグルマップには五合目登山口までの道が存在しないみたいで、間違っで一合目登山口に着いちゃいました😭
五合目登山口を探して道路を彷徨っていると工事作業をしていた親切な人が登山口を教えてくださいました🙏 <https://yamap.com/activities/39372016>

登山道周辺の自販機の設置状況を村HP【西米良info】への掲載を提案!



【現在進行中】

日本200名山「市房山」の山バッジの製作・販売を提案!



⇒近日中に村内お土産店の店頭にも!

台湾からの観光客誘致に向けた村役場と台湾外交部とのマッチング

⇒近日中に駐日台湾政府担当官が西米良村を訪問(調整中)